

所属・資格 総合文化研究室・教授

申請者氏名 松崎 寛

研究課題		日本語音声教育および聴解教育の基礎的・応用的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	日本語教育学および日本語学の観点から、外国人日本語学習者の音声教育および聴解教育に関する研究を行った。今年度は特に、次の2点を行った。 (1)日本語学習者に対する発音指導を行うにあたり必要とされる日本語音声学・日本語学・第二言語習得研究の知識、すなわち教師養成のための教授項目の整理と、その学習における練習方法を開発し、実践した。 (2)アカデミック・ジャパニーズをテーマとしたパネルディスカッションを行い、聴解教育等についてパネリストと議論した。
	研究の 結果	(1)「何を」「どう」教えるかについて文献研究を中心に基礎的調査を行い、得られた知見をもとに授業での実践を行った。音声教育学の実践は、授業内容が一致するものが文理学部にないため、非常勤講師をしている他大学で行った。「一般言語学的な音声学」ではなく「日本語教育のための音声学・音韻論」に必要なのは、日本語学習者の発音を的確に分析・評価し、また自身の分析結果をメタ認知するための技能の獲得だが、その枠組みを支える知識は教師が一方向的に与えるのではなく、分析者自身の気づきにより獲得することが望ましい。そのため活動としては、「母語の異なる日本語学習者に同一の文章を読ませた音声」を多数用意し、興味に従って選定した学習者の発音を各自で分析させ、その結果について報告し合い、情報を共有するピア活動が有効と考えられる。
	研究の 考察 ・ 反省	(1)先行研究の結果と一致するが、やはり分析者には、単音や音節に比べ、文の韻律の分析・指摘が困難であり、このためのアクセントやイントネーションの表記法や分析の観点のヒントを適切に与える必要があった。効果的指導方法については、現段階では対象となる事例数が少ないため、今後も継続的に実践と検証を続ける必要がある。ここでの研究成果の一部は、下記『日本語の音声』にまとめた。また音声分析の枠組みについては、受講生や読者からのフィードバックをもとに追試・検証を行い、さらに効果的な方法の開発を追究する。 (2)については、研究成果がまとまり次第、学会誌や紀要等への投稿を行う。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	【研究発表】 松崎寛「アカデミック・ジャパニーズについて考える- 趣旨説明」日本大学×清華大学日本研究フォーラム 2024 パネルディスカッション、2024年11月2日、/日本大学文理学部	松崎寛「日本語音声教育とコミュニケーションの諸問題」2024年7月31日/文教大学大学院附属言語文化研究所日本語教育夏期講座
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	【研究成果物】 松崎寛・河野俊之（2025）『日本語教員の基礎知識第6巻日本語の音声』アルク、Pp.231	